



### 道徳教育地区別推進協議会が本校で開催されました



11月12日(月)に本校を会場に道徳教育地区別推進協議会が行われました。南会津管内外から40名近くの先生方が来校され、道徳の授業の様子を参観されました。

3年生の道徳の授業では、「よりよく生きる喜び」について学習しました。文部科学省から出されている「私たちの道徳」の本から「二人の弟子」の資料を使いました。担任から生徒たちに自分が人生相談をするならば、二人の弟子のうち、どちらの弟子に相談したいかと質問がありました。それに対して生徒たちは真剣に考え、友達の意見を聞きながら自分の意見を根拠をもって発表しました。多くの先生方が見ている中、自分の意見を堂々と発表している姿は、さすが3年生と感心させられました。



次に2年生の教室で宇都宮大学 准教授 和井内良樹先生が「思いやり、感謝」についての道徳授業を行いました。お金で表せないものにはどういうものがあるのか、3人グループになった生徒たちに質問をし、「三枚の銀貨」という和井内先生が自作された資料をもとに授業が進められました。資料は、三人の登場人物が、主人を失った女性に何かしてあげるのにどういったことをしてあげたらよいかいろいろ考え、はじめは花束や食べ物などをプレゼントしたら喜ぶだろう考え、最終的には三人それぞれがお金を渡すことが一番いいのではなかろうかと判断した話です。生徒たちは思いやりの心や気持ちをお金で表すことについてそれぞれ自分の意見を出し合いました。思いやりの気持ちをお金で表すことができる意見や、表すことができないといった意見もあり、それぞれの意見に対して生徒たちは真剣に考えていました。授業の最後に、和井内先生から「もうすぐ君たちはお年玉をもらう季節になりますね。お年玉をもらうとき渡す人がどのような気持ちで渡しているか考えてみてください」と話がありました。お年玉以外にも、お見舞いの時に渡す見舞金や寸志など世の中には相手にお金を渡す場面がたくさんあります。お金で思いやりや感謝の気持ちを表すことができるかできないか考えるきっかけとなりました。



午後からは、授業についての研究協議会や和井内先生の講義などがあり、参加された先生方は道徳の評価や道徳科の授業の進め方等等熱心に研修を深めました。

# 北方領土青少年等現地視察の報告書完成

7月27日（金）から30日（月）の日程で、南会津郡内の中学生が北方領土隣接地域へ視察学習に行ってきました。

本校からは1年Sさんが参加しました。この視察は、参加者に北方領土問題を身近な問題として捉えてもらうことを目的に実施されたものです。中標津町にある「北方領土館」を見学したり、別海町にある江戸時代に北方警備のために派遣され異郷の地で亡くなった会津藩士をたたえる「北方防衛会津藩士顕彰碑」に立ち寄りたりしました。また、根室市内の「北海道立北方四島交流センター」では、元町民（色丹島出身）の方から話を聞き、多くの貴重な体験をすることができました。報告書が完成し、参加したSさんの報告文を下記に掲載しますのでご覧ください。



## 館岩中学校 1年

「なぜロシア人との交流を行うのだろうか」「なぜ北方領土についての建物があるのだろうか」私が北海道に行き、いろいろな場所を見学しているときに思ったことです。

北方領土の建物には、今、北方領土に住んでいるロシア人と日本人が日本の文化であるという習字などを一緒に行い、交流したりしている写真がたくさんありました。また北方領土について説明している建物やモニュメントが多くありました。最初は、食事生活も文化も違うのにどうして交流するのだろうかと思っていましたが、元島民の得能さんや、北方館の方の話を聞いたり、自分でよく考えたりしてみると、その意味が分かってきました。

まず、ロシアとの交流についてです。私は、日本人は島を返してほしいという思いがロシア人に少しでも伝わってほしいと思い、長年交流をしているのだと思いました。これからも交流を続けていけば、ロシア人に北方領土を返還してほしいという元島民の方の強い気持ちが伝わると思います。

次に、北方領土のモニュメントについてです。北海道には、北方領土についてのモニュメントや像がたくさんありましたが、その中でも一番心に残っているのは、「四島のかけ橋」というものです。四島のかけ橋は、国後島・択捉島・歯舞諸島・色丹島の4つの島を半円状の橋にしたもので、この橋は四島返還のために建てられたものだそうです。そしてその橋のなかには、四島返還要求運動の署名簿などが入っています。この橋には、要求運動のための元島民の努力が詰まっているのだと感じました。そして私は、橋の真ん中に灯してある火は、四島が返還されるまで消さないというところに島民の方々の熱い気持ちを感じました。また、得能さんは、北方領土の事件があってから73年も経っているのに、まだ動きがないとおっしゃっていました。私はこれからの北方領土資料館が、返還要求運動の象徴となり、日本中の人に北方領土について知ってもらうきっかけになり得ると思います。そして、その問題を重要視してもらうことで、国民総意となり、早い問題解決につながるのだと思いました。

北方領土を返してほしいという元島民の思いがいち早く届いてほしいです。しかし、北方領土問題が解決したら、その問題自体や、元島民の方々の返還運動に参加した方々の努力が忘れられてしまうのではないかと思います。そのため、私はもしこの問題が解決してくれたら、その問題を忘れてしまった人、その問題について知らなかった人たちに、島民の方々の努力を伝えたいです。

今回この問題について知り、今の自分にはやらなければいけないことがあるかもしれないと思考えたのは、「ジョバンニの島」という映画で見たような亡くなってしまった方の分まで今の生活を全力で送るということです。それは、私にもできることだと思います。

私は今回北方領土について学び、自分の知識がひとつ増えたため、よい経験になりました。これからも、たくさんの方に問題に触れ、自分の知識を増やしていきたいです。そして、北方領土の問題を忘れないようにします。

早く四島が、返還されますように。